

生徒会が主体となって、 全校あげて自主的な省エネ活動を展開。

富山県 上市町立上市中学校

特徴

- 活動の主体は生徒会。
- 生徒が自主的に、校内と家庭の両方で省エネ活動を行っている。
- 全校生徒に結果を発表し、学校に省エネを定着させている。
- 灯油ストーブの省エネ、教室の消灯、牛乳パックと古紙のリサイクル等、学校でできることはすべて行っている。
- 家庭には自動車の使用を減らすよう要請。冬季の徒歩通学を奨励した「歩こう運動」を実施。



上市中学校

生徒会を中心に 「省エネ集会」で活動を決定。

上市中学校では、以前から生徒会執行部が率先して省エネ活動を行ってきました。しかし、これまでは希望者だけの活動であったり、継続できないものが多かったそうです。今回は、一人ひとりが毎日実践できて、長く続けることができるような活動を模索しました。

生徒会執行部で作成された省エネ案は、評議会（生徒の代表者が集まる会議）で決定され、1月の「省エネ集会」で全校生徒に対して説明されました。同時に、海外での環境破壊の例として「熱帯雨林の象」という番組も併せて紹介。「一人ひとりの力は小さいかもしれないけれど、将来の地球環境のために力を尽くしていきたい」という生徒の前向きな意見もあり、この集会後の1か月間を省エネ強化月間として、環境活動に取り組むことが決まりました。

灯油削減運動 「ストーブチェック」。

全校で使用しているストーブの平均的な灯油使用量を調査したところ、1時間1台の石油ファンヒーターを消すと3

か月間で15.9リットル、設定温度を1度下げれば10.22リットルの灯油を節約できることが分かったそうです。そこで、偶数時間目にはストーブを消すことにし、設定温度は18℃、目標の削減量は1か月で329リットルとしました。全校でどれくらい実施できているかは毎日各クラスで集計し、学年ごとに掲示したり、給食時の放送で生徒会執行部が報告しました。その結果、2月は目標の82%、3月は85%以上の灯油削減を達成しました。

食のありがたみを知る 「国産限定給食の日」。

食べ残しを減らすことが省エネにつながる、という考えから給食を残さず食べる運動を実践しました。食のありがたみを体験するために、農林水産省の「食糧輸入がストップした場合、日本で自給できる食事のメニュー」を参考に、「国産限定給食の日」を設けました。メニューはご飯と芋と小魚だけ。この日の前後の食べ残しの量を点検し、意識アンケートなどを行った結果、全校生徒の関心も高まり、食べ残しも減ったそうです。

また、4月から富山県全体でレジ袋が有料化されることをうけ、給食時のゴミ集めはレジ袋ではなく、箱形にした新聞紙で集めることにしました。これによってレジ袋の原



新聞紙で作ったゴミの回収ボックス

料である石油が1日あたり約0.26リットル削減されたことになり、1か月（20日間）でおよそ5リットルの節約に結びつきました。

自動車に乗らない生活。 「歩こう運動」で石油を削減。

上市中では、冬季間は安全のため自転車通学は禁止となっております。大半の生徒は保護者の自動車で通学しているそうです。そこでこの冬は、車をなるべく使わないよう「歩こう運動」を展開し、徒歩通学を全校に奨励しました。学校まで歩いて登下校した人数をクラスで集計し、歩いてきた時間から距離を計算して学年ごとに掲示。この結果も生徒会執行部が昼の放送で報告しました。PTAとの連携で家庭の理解も得られ、徐々に参加者も増えていきました。2月から3月の1ヵ月で歩いた距離の合計は全校累計で3,096kmとなり、これはおよそ日本列島の長さと同じ距離を歩いたことになります。車に乗って通学した場合と比べると、約221リットルの石油が削減された計算です。

「こまめちゃん運動」で消灯を呼びかけ。 地元のラジオ局でも紹介。

教室の消灯運動は5年前から実践しているそうです。省エネナビの設置などによってこれまでも実績を上げてきました。今回はその活動をさらに広げるために、「こまめちゃん」というキャラクターを考案してシールにし、電気のスイッチの近くに貼って、こまめな消灯を呼びかけました。この活動は地元ラジオ局でも取り上げられたそうです。

また校内印刷物などを通じて、シャワーの使用時間の短縮や、テレビ電源のこまめな消灯など、家庭での取り組みも積極的に呼びかけました。



キャラクターを利用した節電ポスター

牛乳パックを 古紙リサイクルに活用。

200ミリリットルの牛乳パック5,000枚は、樹齢20～30年の木1本に相当するといえます。上市中では1日に約

700枚の牛乳パックが出るので、7日で1本、年間だとおよそ25本の立ち木に相当することになります。また、牛乳パックを燃やす時には二酸化炭素も排出されるので、町内の清掃公社に牛乳パックを回収してもらってリサイクルすることにしました。リサイクルの方法は、

- ①まずバケツを3つ用意。
- ②1つ目のバケツから牛乳パックで水を汲む。
- ③2つ目のバケツに水を捨てる。
- ④3つ目のバケツでゆすいで、はさみで切りひらく。



牛乳パックの
回収ボックス

このようにバケツを利用することで水の節約にもなり、リサイクル活動における電力の節約にもつながります。洗った牛乳パックは2日間干した後、回収ボックスに集めたものを清掃公社が回収していきます。その結果、1ヵ月の間に約70.4kgの牛乳パックが回収されました。これは立ち木に換算すると、およそ3本分の木をリサイクルしたことになります。この活動は軌道に乗っており、平成20年度も継続して実施していくそうです。

また、教室で余ったプリントは月に1回各クラスで回収し、使える物は再利用、使えないものは資源回収に回すという活動も行っています。この取り組みは4年間継続しています。

上市中学校の伝統は 「環境・省エネ活動」!

これらのさまざまな省エネ活動は、地元のラジオ局や新聞社でも報道され、以前にもまして上市中学校が環境問題へ力を入れて取り組んでいることが広まるようになりました。地域や家庭でも大きな話題となり、生徒たちの自信と誇りにもつながっています。“上市中学校の伝統は「環境・省エネ活動」”と答える生徒も多く、学校全体に省エネの意識がしっかり定着しています。

【エネルギー削減率】 15.0%

■プロフィール

所在地：富山県中新川郡
参加生徒数(学年)：649人(1～3年生)
省エネ活動について：以前から実践
省エネナビ：設置